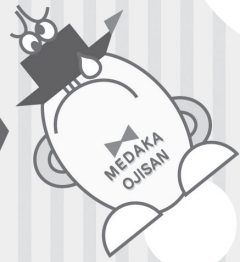


メダカおじさんの
発明ドキュメント

メダカさんの
産卵床らんじょうストーリー



Itabashi Masayuki
板橋正幸



も く じ

・まえがき・	7
--------	---

第1ステージ メダカとの関わりとその理由

1・我が家のメダカを取り巻く環境	10
2・メダカと私の初めての出会い	12
3・メダカとの第二の出会い	13
4・親父の残したメダカ10匹	15
5・メダカ親父の子はメダカ親父に	16

第2ステージ 物作りからメダカへの工夫改善へ

6・私の探求心を甦らせた小さなメダカ	18
7・問題点解決への私の信条(1)	19
8・問題点解決への私の信条(2)	20
9・固定観念を打破するメダカとの付き合い	21

第3ステージ 専用の産卵床創作への連鎖行動

10・シュロを使った浮く産卵床	24
11・疑似ホテイアオイの試作	27
12・自作疑似ホテイアオイの自己評価	29
13・孫からのダメ出し	30
14・メダカフレンドからの問題提起	31
15・上手く行かない訳の洞察	32
16・産卵床部材ベストの代物を探して	35
17・水温測定からの仮説と検証	36

18・円錐形網のトライアル	38
19・花形産卵床にした理由	41
20・青天の霹靂ピンチをチャンスへ	44
21・産卵床の逆転の発想	46
22・ネット目による産卵の変化	48
23・ネット色からの影響	49
24・試作用産卵床と浮き部材の寸法	51

第4ステージ 試作いろいろな工夫あれこれ

25・メダカを運ぶ時の簡易容器	54
26・ドーナツ型浮きの加工方法	56
27・浮き加工切断面の対策	57
28・浮き部材・固定具の選定	59
29・支持枠に穴を開けた理由	61
30・産卵床を支持枠に接触させない	63
31・花ビラ、ネット重ね枚数のベスト	65
32・人工産卵床のパターン	67
33・柔軟な部材での産卵床作成方法	69
34・産卵床もう一つの形	70
35・産卵床を持ち運ぶ為の容器	71
36・人工産卵床のコストパフォーマンス	72
37・連結部材部分の改良	73
38・改良連結部材四つの立て爪の理由	75
39・蓋を付けて見る	77

第5ステージ 特許への行動と協力者の面々

40・特許する気になった決め手	80
41・強力な協力者との出会い	82

42・理科担当先生の活躍	83
43・坂戸市環境学館いずみ	84
44・ボランティアスタッフの応援	85
45・何度も我が家を訪ねてくれた子供達	87
46・又紹介のモニター先生	89
47・モニター・もう一人のメダカファン	90
48・コアスポットと命名の理由	92

第6ステージ 追加して述べたい話

49・コアスポット 使い方の極意	94
50・学校の授業に合わせた二股水槽作戦	95
51・明細書の一節に追加したい事	97
52・メダカが小さくなるミステリー	98
53・メダカの天敵はトンボ？	99
54・デング熱防止の陰の立役者	100
55・ペットボトルキャップ利用の有効性	101
56・環境について一言	102
57・何故メダカミクスが日本を救うのか	103
58・理科に強い後進の卵作りを！	105
59・アイデアを有効に！	107
60・メダカおじさん用語の解説	108

ファイナルステージ ライン巻末特集

*・「コアスポット」図面	112
*・「コアスポット」写真 メダカ用人工産卵床装置	113
*・「コアスポット」使用方法（例）	114
*・メダカ用人工産卵床装置（コアスポット）特許明細書・等	115
あとがき	148

・まえがき・

この本は私がメダカに関わる事になり、メダカの人工産卵床装置「コアスポット」を創作した詳細を、当時の記録を見ながら思い出してペンを進め、その時々状況をなるべくリアルに表現して、絵などを添えて分かりやすく伝える事に努めた回想録である。

第一に教育の難しさを抱える先生や授業を受ける児童達へ、もちろんメダカ飼育愛好者は利用して欲しい。又、小さなアイデアを持っている方の発明促進への道標になればと思うのである。併せて色々な事情等で第一線から退いている方や、豊かな経験や知識を持っている方が、持てる力を社会に向けて発揮する手掛かりになれば幸いである。

読み終えてから自ら何かを感じて、行動に移して行く事となれば願っても無い事である。

平成28年 春 著者



第1ステージ

メダカとの関わりとその理由

- 1・我が家のメダカを取り巻く環境
- 2・メダカと私の初めての出会い
- 3・メダカとの第二の出会い
- 4・親父の残したメダカ 10 匹
- 5・メダカ親父の子はメダカ親父に

1・我が家のメダカを取り巻く環境

「100倍だ！」株の話ではなく、現在、我が家の庭には20個の水槽があり、約1000匹前後のメダカを飼育している。メダカを飼育始めた頃と比べれば、100倍ものメダカを飼育する様になっているのである。

私の住まいは埼玉県の中央部よりやや南西の坂戸市にあり、すぐ近くには高麗川という川が流れており、土手からは遠くに秩父の山並みとその他の山並みが続いて、晴れた日にはやや左手の遥か奥に富士山が望める所である。

そして近くには関越自動車道の（ETC専用）坂戸西スマートインターが最近完成して、車の便も大変よくなっている。

しかしメダカから見た自然環境は余り良いとは言えないようで、水田や水路に昔は当たり前のように目にしたメダカは、そう簡単に見ることが出来ないのである。

以前近くの大学が管理している試験水田の、水路の端で、数匹のメダカを発見した時はとても感動し、暫くはその姿を静かに、息を潜めて見ていた思い出がある。

やはり三方囲まれたセメント水路や、水田への水の引き込み方法の近代化や、川縁のブロック補強整地などメダカが好む湿地帯や浅場の水辺が少なく、水田には入れず、住める環境がとても少なくなってしまったせいだろうか。

しかしながら、メダカはまだ人間社会の中でしっかり生きている。年配者の幼い日の思い出の中の存在にあり、癒しの一つとして我が家に貫いて来る年配者の方が多いのは、メダカと親しんだ価値のある証であろう。

更には小学校の児童達の学びの教材として尊重されている事からも、存在価値を見出す事が出来る。

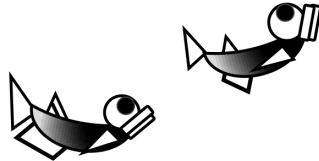
昨今絶滅危惧種として名前を挙げられているものの、自然の中では追いやられているメダカであるが、今や形態を変えて大きな団体協会やら、愛好会や、個人の飼育家や、子供さんの居る家庭の中迄に、しっかり居場所

を確保しておりその需要は絶える事が無い様にも思えるのである。

又ビジネス界の中では業者による品種改良で、色や形等、昔では考えられなかった種類のメダカが出現しており、希少で高価なもの等で新たな影のブームを起こしてファンを増やしており、その存在を確立してきている。

そんなメダカ達の周囲を取り巻く環境は昔とは時代と共に変わって来ているが、人とメダカの間柄はきっと変わることが無く、親しい間柄であり続け、今後も絶える事が無いと信じており、私はそんな信者の一人なのである。

2・メダカと私の初めての出会い



私が小学生、低学年の頃であった。

学校から帰って来て玄関に着いた時、親父が笑いながら近くの睡蓮鉢を指さして「メダカが卵を産んでいるので見てごらん」と言う言葉に、陽だまりの水面をのぞき込むと、そこには薄茶色したシュロ皮の繊維の茂みの中のあちこちに、それは小さな泡の一粒のように見える、やや薄黄色した沢山の卵が目にとまった。

これからどうなるのかと興味がわいて、毎日卵を観察していると数日目には卵の中に点が見え…更に数日すると2つの輝く点がハッキリ分かる様になって…動きが大きくなって…くるりと回転する様にもなって来て…卵が見えなくなった時には孵化したらしく…水面に殆んど動くことのない針先の様な小さな稚魚がジッと浮いているのであった。

やがてはその小さな尻尾を小振りにしながら、まだ弱い力でほんのわずかずつ区切りながら、少しずつ前に泳ぐ可愛らしいメダカの子がいて、まだ幼かった私の心にととても嬉しい感動を覚えさせてくれたのである。

それは、およそ2週間の期間での、今では遠い、淡い記憶の中の出来事だった。

メダカ好きの親父が私に興味を持たせてくれた、メダカとの初めての出会いであった。